

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100482		
法人名	セントケア和歌山株式会社		
事業所名(ユニット名)	セントケアホーム中之島(2F)		
所在地	和歌山県和歌山市中之島380番地10.		
自己評価作成日	平成31年3月1日	評価結果市町村受理日	令和元年6月5日(水)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症ケアに重点を置き、お客様個々に個別対応ができるよう努めています。またご家族様や友人の方たちが自由に訪問が可能な環境を整えています。家族的な環境のもとで日常生活の介助を通じて安心と尊厳のある生活が営む事を支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=3090100482-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

重度になった入居者が亡くなり入れ替わりがあって、全体の介護度が低くなったので活動的なことができるようになってきた。今後は外食や外出などを多く取り入れていきたいと意欲的である。職員が看取り介護を経験したことにより、より一層生きることの大切さを実感し、生きる意味と価値の実践に取り組んでいる。見取り時のケアについて、医師、看護師、家族、本人、事業所職員等が前向きに話し合いをし、入居者にとって最善のケアを考えている。見取り研修を定期的に行うなど人の生と死について職員一同前向きに取り組んでいる。また、共用型デイサービスの受け入れにより、ホームの入居者と一緒に日中活動できる支援も行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成31年3月27日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、入居者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての入居者の 2. 入居者の2/3くらいの 3. 入居者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	入居者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	入居者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての入居者が 2. 入居者の2/3くらいが 3. 入居者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	入居者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての入居者が 2. 入居者の2/3くらいが 3. 入居者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	入居者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての入居者が 2. 入居者の2/3くらいが 3. 入居者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、入居者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての入居者が 2. 入居者の2/3くらいが 3. 入居者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	入居者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての入居者が 2. 入居者の2/3くらいが 3. 入居者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、入居者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	入居者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての入居者が 2. 入居者の2/3くらいが 3. 入居者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営方針書に会社の理念・営業所の目標を乗せていて毎朝朝礼で朗読し、管理者・職員で共有し実践に繋げている	会社の経営理念に沿うように事業所独自の年間目標が経営方針書に設定されている。管理者・職員は毎朝の朝礼で唱和し、共有に努めるとともに実践に生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	営業所のある自治会の溝掃除に参加したり回覧板を回してもらったりと地域の一員としてかわらせてもらっています	自自会には入っていないが、回覧板を回してもらったり、清掃活動に参加したりと地域とのつながりを大切にしている。常にあいさつや立ち話などができるよう気を付け、関係性が深まるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から電話や来所で認知症の相談を受けた時は対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではお客様の家族様や包括支援センターの方に参加してもらい前月に行ったイベント・ホーム内での様子などを報告し、家族様や包括支援センターの方から意見を頂き、改善・報告している	2か月に1回の運営推進会議では、日々の暮らしぶりや入居者支援に対する取り組みなどが話し合われている。家族・自自会の代表・包括支援センターが必ず参加しているが本人の参加ができていない。	運営推進会議は、入居者自身の事を話し合う場でもあるので、できる限りご本人の参加があることが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの方と運営推進会議の出席の連絡や相談・報告がある時は随時行っている	包括支援センターとは随時、連絡を取り合い事業所の取り組みや支援状況など報告や話し合いができています。市の担当者とは、事故があった場合に報告に行ったり、助言をもらった協力関係の構築を目指している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回身体拘束の研修をスタッフ全員が受ける体制ができています。更に不適切なケアを早期発見できるように毎月ミーティングを行いケアを改善するようにしている	身体拘束に関する研修は年2回行い、日々の支援の中で職員同士相互確認し、身体拘束をしないように取り組んでいる。会社の方針上徘徊の人の安全を確保する上でドアが自動ロックになっている。	安全を優先し、事故に繋がらない支援は大切なことだが、職員が多く勤務しているときなど少しの時間でも、ドアの自動ロックを解除できる時間の検討を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回虐待防止の研修をスタッフ全員受ける体制ができています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は成年後見制度などの事を外部の研修を受けたりし学び、必要なお客様には相談・支援を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改定などがある場合書面を家族様に送付し、疑問のある家族様には個別に説明させていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様や家族様が直接管理者や職員に意見。要望を言ってくれることもあるのでそれらを運営に反映している	入居者には暮らしの中でできるだけ要望を聞くようにしている。家族には毎月入居者の近況報告をする際に要望の提案を聞き取りしたり、面会時や電話連絡時、運営推進会議時などの機会に意見を聞き、反映できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は意見があれば、管理者に直接言える環境がある。また月一回のミーティング時にも職員から意見を言ってもらえる機会がある	月1回のフロアミーティング時には、職員が意見を言いやすいように配慮している。職員が退職しようと考えていた時に管理者が声をかけ、話を聞いてくれたことで、退職を留まったケースもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの要望を聞きシフトを作成をしている。正職員は半年に一度目標管理シートを作成し向上心を持って働いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスタッフの力量を考え内外の研修を受けてもらいケアの質の向上を目指している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を自社で開き同業他社の方を招き交流する機会作りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時にはお客様の不安が強いため出来るだけ要望を聞きお客様の不安を少なくできるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時にはお客様が必要な情報をお伝えして心配事を聞き関係作りをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入時にお客様・家族様の現状をお聞きし今困っていることに対してこちらとして行えるサービスを提案している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様に対してできる事を行ってもらえるよう声掛けし職員との関係作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にもできる事を伝えて定期的に来所していただけるよう連絡を取りお客様との関わりをしていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お客様の馴染みの方の来所の受け入れなどを行っている	以前は馴染みの美容院に行く人がいた。今は行っていないがいつでも行ける体制はとれている。入院中の夫の見舞いに行く人や、定期的に家に帰る人もいる。また入居者の友人が訪問することも多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係が円滑に行くよう職員が間に入ってコミュニケーションができるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に利用者様移られた時もその後の経過を家族様にお聞きしたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様から直接思いをお聞きしたり話すことが困難な方は家族様から要望などを確認しながら行っている	日々の暮らしの中で本人の思いや要望を聞き取るようにしている。一職員の考えにならないように職員間で話し合いながら、また家族の協力のもと、入居者のニーズに答えられるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	別の事業所から移ってこられたお客様の場合それまでのサービス内容等の引継ぎを行い把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様の状態を確認させてもらいできる事を行ってもらいながらホームでの生活の流れに合わせてもらえるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様家族様の意見や要望をお聞きし医師や看護師の医療的アドバイスを反映し職員のケアの意見を組み込んだケアプランを作成している	フロアミーティング時の職員の意見を反映し計画作成につなげている。評価もフロアミーティング時に行っている。日々の支援内容は経過表に詳しく記録されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に経過記録に記録して体調変化などは日報に記入し職員間や管理者に伝えケアの見直し改善を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズや状態の変化によってサービスが事変化する場合は自社、他社でできるサービスを考え、お客様・家族様に提案している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別に必要な地域資源を活用し安全で豊かな生活ができるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様のかかりつけ医を確認し継続して医療が受けられるよう支援している	本人・家族の希望により事業所の協力医がかかりつけ医である。耳鼻科、眼科等の医師も往診に来てくれている。外部からの訪問看護師が24時間体制で対応していて緊急時は医師と連携し対応にあたっている。通院は家族支援で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回看護師による体調管理をしてもらえ体制がありお客様の体調の急変時には連絡・相談の体制もある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には基本情報を医療機関へ伝えたり、退院前にはカンファレンスに参加したりして円滑な退院にも努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にはお客様・ご家族様医師とのカンファレンスをし今後のケアの方針など確認を行っている	見取り時の対応については、契約時及び段階ごとに説明を行い、事業所・訪問看護・医師・家族で話し合い個々に合わせた看取り介護のできる体制をとっている。最近2名見取りを行ったが連絡をすると看護師がすぐに対応してくれるので職員の不安も軽減されている。見取り研修も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルがあり職員にマニュアルで対応してもらっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回研修を行い職員全員に対応を確認してもらっている	火災時の訓練と災害時の訓練を年1回ずつ行っている。地域の人との合同訓練は行っていないが運営戦略会議の中でも自自会の人から一緒に訓練を行ってはとの意見ももらっている。	災害時は地域の人との協力は欠かせないものです。一緒に訓練が行えるような体制づくりに期待したい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様一人ひとりに合わせた声掛けを行うようにしている	呼び名については本人や家族からの要望があれば呼称を用いることもあるが、その際には人格の尊重に十分配慮している。入居者の個人情報については、カギのかかる場所に保管するなどプライバシーの保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からお客様とのコミュニケーションをとり思いや希望を聞き、自己決定してもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の意見を聞き出来るだけお客様のペースで一日を過ごしてもらえよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服などは自身で選んでいただける方には選んで着てもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の話をしたり、その都度感想を聞いたりコミュニケーションをとったりしている。飲み終えたコップなどカウンターに持ってきてもらってりしている	調理専門職員が1階で調理していて、1階部分は食事を作っているにおいがする家庭的な雰囲気である。法人の方針で入居者はお客様との考えの下配膳などは職員が行っているが、ホットケーキやお好み焼きなどのおやつ作りは、役割を持ってもらい、一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのお客様の食事量・水分量を確認。いつもより少なくなっていないか等毎日確認している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯のある方は出して洗ってもらったり、うがいの困難な人はモアブラシを使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の仕方現状を考えてその方にあった方法で支援している。オムツ・リハパン、パットの使用・不必要等考えて支援してりう	入居者一人一人の排泄パターンに合わせて支援を行い、リハビリパンツやオムツ・パットなども個々に応じたものを使用し、自立に向けた見直しを行っている。夜間も必要以上の声掛けは避け、部屋から出てくるのを確認してから声をかけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状態・回数・間隔を確認し、水分や服薬によって調整を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合などで入浴日が決まっている場合もあるが個別に希望の曜日など時間帯もお客様に添って行っている	本人のタイミングに合わせていつでも入浴できるようにしている。入浴を拒否される入居者には人を買えたり、言い方変えながら対応している。毎日入浴できる体制を取り、週3回以上入浴できるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して就寝して頂けるよう居室の環境づくり等を行っている。昼夜逆転の方は医療への相談も行い服薬も考えて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員がお客様全員の服薬の事を把握することは困難であるが、排便の薬を服用している方などは注意してもらったりしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に折り紙を楽しんでもらったり洗濯物をたたんでもらったり新聞折をしてもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々には家族様の予定と合わせて外出されたりしている	事業所の周辺を散歩したり、事業所の買い物と一緒にしてもらったりしているが高齢化が進んで一緒にいけない人も増えてきていたが。最近重度の方がなくなったり退所したため入居者層が変化したので、これからはもっと多く外出支援に力を入れていく体制ができてきている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に入居されている方はお金を使う事はないです。外出時に少額を持っていき欲しいものを買う時に出してもらふことがある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様・家族様の希望を聞き電話を掛けられる時間帯にかけてもらえるようにしている。手紙も記入後出せる体制がある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の温度・湿度匂い・光の強さなどに気をつけ適切な状態になるように心掛けている	木のぬくもりがあり落ち着いた空間で、玄関には生花を飾るなど季節感を大切にしている。床は床暖房になっているので温かく空気の汚れや室温にも配慮された加湿器を置くなどの工夫がなされている。リビングでは、入居者や職員が談笑する光景も見られゆったりと時間が流れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の個々の席やソファがあり仲の良い方同士でおしゃべりされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居時にお客様の使っていたものを持ってきてもらってりし、居心地よく過ごしてもらえるようにしている	居室は本人の希望に合わせた空間になっていて、シンプルな部屋もあれば、使い慣れた調度品を置くなど入居者の個性に合わせた環境が整えられている中で、自分のペースに合わせて落ち着いて生活できている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前にはお客様のお名前を掲示して自身の部屋を理解してもらえるように工夫している		